

活動名 障がい児が主体の音楽活動	団体名	くちたにこにこくらぶ
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 小川 優子
	支援金額	20 万円
活動概要		
<p>身体や知的や発達にハンディを持つ子供とその兄弟姉妹と一緒に余暇を楽しむために楽器を使った音楽活動を行いました。これまではなかなか取り組めなかった音楽活動を身体のハンディや情緒面のハンディがあっても参加できるように、いろいろな種類の楽器をそろえました。子供たちは思い思いの楽器を使って音楽遊びを楽しむ機会ができ余暇活動が充実してきたと思います。また、和太鼓鑑賞・体験会や、オーケストラのコンサート等、様々なジャンルの音楽に親しむ活動も行いました。先日は即興演奏家の講師をお迎えして、子供たちが自発的に音を出して楽しむ活動も体験し、今後はこの活動を楽しく続けていきたいと考えています。将来は、地域の方の前で発表ができるようになりたいですが、現時点では活動の様子をポスターにして地域の福祉祭りに展示参加をして活動 PR をしています。障がいのある子供たちの豊かな心の育成には、音楽の活動はととても良いと今年度の活動を通じて実感しました。ご支援ありがとうございました。</p> <p>◆実施時期 平成26年6月22日 発達サポートらっぼるてい療育室 平成26年7月26日・12月7日・27年3月7日 筒瀬福祉センター 平成26年9月6日 広島文教女子大学附属高等学校 平成26年10月4日 口田ふれあいセンター、10月18日 口田小学校体育館 平成26年12月18日・27年1月23日・2月19日 在宅障がい児自宅訪問</p> <p>◆参加人数 6/22 26人・7/26 14人・9/6 35人・10/4 20人・10/18 10人 12/7 70人・3/7 28人 在宅訪問 12/18、1/23、2/19 各4人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:215 名</p>		



3月7日音をだしてあそぼうぜ



福祉まつりで活動ポスター展示



楽器のお披露目会



クリスマスコンサート

◆実施に伴う効果

- 1.この支援のご縁で知り合った東広島青少年オーケストラの方と一緒にクリスマスの活動ができた。
- 2.地区社協の会長さんがいつも活動を応援してくださっており、地域の社会福祉協議会発行の情報紙に、活動の紹介とマツダ財団様からの支援をいただいた記事を掲載していただいた。
- 3.福祉祭りでの展示ポスターを多数の方に見てもらえた結果、民生委員さんから、クリスマスイベントに合わせて手作りの妖怪ウォッチを子供たちにプレゼントしていただいた。
- 4.広島市手をつなぐ育成会安佐北区支部とお互いの行事を共催にして、より多くの障がい児が音楽を楽しめるように連携した。今後もいろいろな団体と活動で協力していく予定。
- 5.在宅で療養している障がい児のお宅に訪問して音楽の活動を届けることができた。

◆苦勞した点

- 1.活動を始めた当初、楽器選びについては音楽療法士の先生にアドバイスをいただいたが、活動の進め方についてはどのようにするか方向性がなかなか決まらなかった。子供たちには様々な障害の特性があり、曲を奏でることはかなりハードルが高いため、まずは楽器に慣れることから始めた。
- 2.音楽に関しては、素人の親が殆どなので、指導者の確保が大きな課題だった。音楽の勉強をしているメンバーもいるが、仕事の都合などで毎回の参加が難しく、講師をいかにして見つけるか半年近く悩んだ。東広島青少年オーケストラ様から講師の先生をご紹介いただかなかっただら、進展できていなかったかもしれない。今回のマツダ財団様からの支援で、いろいろな方とご縁をいただき、人との繋がり大切さを実感した。
- 3.和太鼓体験やオーケストラのコンサート、音楽ワークショップなどは、障がい児の余暇活動としてとても楽しい企画だと思ったので、他の団体などに声掛けをして参加者を募ったが、PRが足りなかったのか参加する人が少なくて残念だった。親子で楽しめる活動という事を、今後はしっかりPRして、ハンディを持った多くの子供たちに将来につながる楽しい余暇の提供をしていきたいと思う。

◆今後の課題・発展の方向性

- 1.即興演奏家の講師の先生と出会えたので、今後は定期的に音楽ワークショップを開催していただき、子供たちが自発的に音楽遊びを楽しめるように活動したいと思う。「やらされている」のではなく自分から「やりたい」という気持ちになれるようにサポートしていきたい。
- 2.曲を弾けるようになる活動ではなく、それぞれの感性で自分の音をだし、一人一人の出す音が融合して一つの音楽を作り上げていく、自由に音を楽しみながら、みんなとまとまっていくというスタイルの活動を目指していこうと考えている。
- 3.将来、余暇を楽しめる人になって欲しいので、無理やりや押しつけをせず、音楽を好きになれるように緩やかに活動を進めていきたいと思う。
- 4.活動を通じて、一般の方(健常の方)と触れ合う機会もあり、障害への理解を深めていただく良い機会でもあるので、支援者を広げていくことも積極的に行いたい。一緒に音楽遊びをする仲間として参加してくれる支援者を増やしていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今回ご支援をいただいたお陰で、思わぬ繋がりも得られ、この1年で活動が大きく広がり大変感謝しております。このつながりを今後も大切にして活動をしていきたいと思っております。

また、いろいろな音楽活動をしたいという目標があったので、地域活動に取り組まれている私学の高校にも活動協力を依頼しに行く『行動する勇気』と『きっかけ』ができ、ここでも繋がることができました。

これからの活動で、音楽を楽しむ障がい児が増え、支援してくださる仲間が増え、障害に対する理解が広がって、ハンディがある人もない人も一緒に余暇を楽しく過ごせるような活動になるように、みんなで取り組んでいこうと思っております。そして、何よりも親と子が仲間と一緒に余暇を楽しめる場所になることを願って活動をしていきます。ご支援をいただき本当にありがとうございました。